

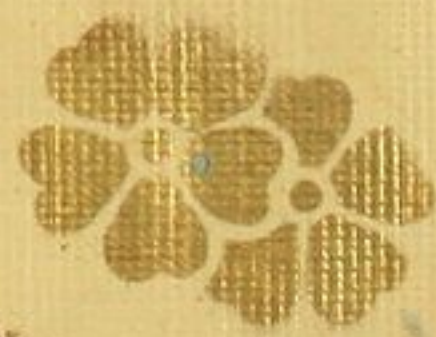
後鳥羽院御製

宇具比須能奈討登

母伴末多布類雪余

杖濃兼志路喜安婦

佐駕乃屋滿



前中納言定家

じりりしむかひを

うしろ神ぬを

しり

新ら月月

かきせあ

うぬ

後右衛門左衛門

うはく あれま

あれ

んせら

野鳥の

みら

せきん

の

しり

この草

きん

しり

春議雜經

あはれ  
の  
あはれ  
の  
あはれ  
の

いふね多力人が作

いふね山成り

いふね

能因法師

いふね  
あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

後東播磨政前公政長

とほれよ女の

じつはとそひ

かりと

ふる葉ん

風のあさり

あふくま

皇太后宮人丈後成

ふゆわろそな成水

ふくまへんよ成花

の病うぬ井のふ

まうし

床蓮法師

言くはるる所の

みかたはるる所

水

かまふ人にたはる

地のし

み

六條前右大臣家

月抄巻一

うりし

ね

年水書次をきえ

いふにたはる

し

藤原基俊

葉より 玉よりし

の 玉より母

祢の あり

あり か

ふね けり

何り けり

後三位頼政

庭れおれはま

かきぬふた

そらのの

元はりまを

とわは月外



前大僧正慈鎮

秋の 風をほく

うら

ね

てね

きまらふしをよ

あふげこりれ

か紙

法橋形眼

又此 見ゆ

ま

まの

あ

とつれ

と

秋の

ふりある

葉し

風

鴨長明

秋の夕をわ

いふは

あはれ

そよ風

の秋

を

人藏郷有家

風を  
なほ

ふ

あはれ

の

は

妻

皇秋門院丹後

玉くしりふはる

秋の来ははる

水浦よりと

月をみれば

皇太后太后後成女

あくる終る

秋の来は

りりははる

ま

月ふらふ

床のり

ら

西行法師

点の

子海まてふ

北風

うしろ

か

きあしくは

あ

まよあ

せ

の

後之人我を政大

あまほのや川瀬の

をえんのそと

あま

うは

神のあま

後二位家階

有 此後一連

より

此後又由

わらわ

かゝるの

可 行心

人 あり

人納言通具

君、御家神り業

不斗冬乃大り業

此世よりを秩

河利あり業

藤原秀能

風もさへはらうに

まらみのあは

四六

たしなむる人よ

たしなむる人よ

式子内親王

さしやう

あはれ

あはれ

なうらむ

のぶら

宗徳院御製

うらた  
あはらふ

うた  
うた  
うた

人らとあはれ野の

みぢくあはれ

遊

後醍醐天皇御製

あはれとあはれ

あはれとあはれ

あはれとあはれ

あはれとあはれ

二茶は讃波

みりのせりなる

碓のまゝり

き 袖のゆるこ

らら け け

後徳人守ん長

おと けりて

けり のり

あは せり

あは けり

あは けり



源後賴朝長

つくり左の志の

にいれあふじよ

あちやいふて地

わく執事

正三位初家

下祿もさうに

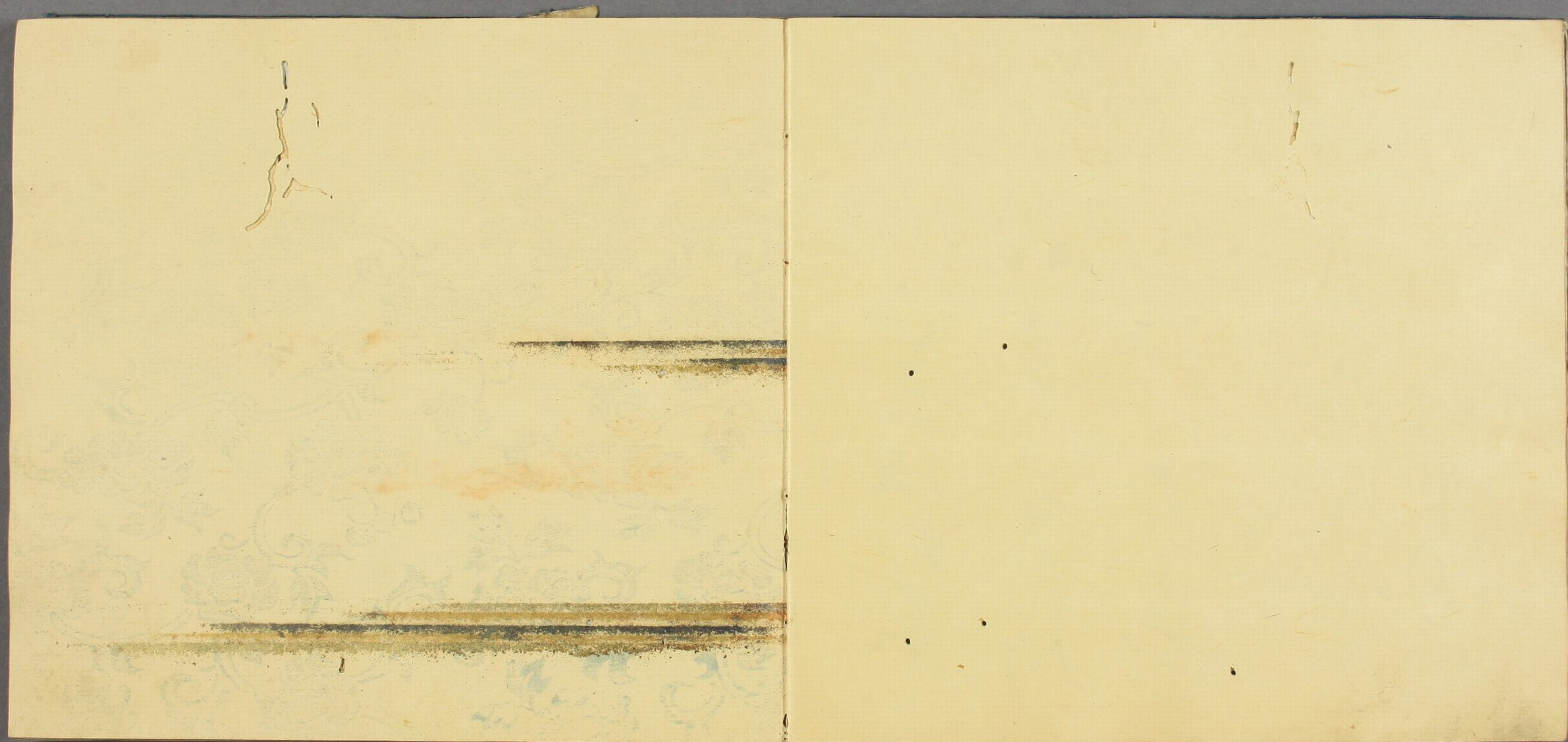
わきまをたも

と

善法にあら

のらふ

し



西園寺道長公家

五三三

三月廿二日

くわん年

あつた

かきつね

の月日

八条院高倉

くわんかきつね

のたのり

くわんかきつね

同高あつた

あつた

小侍後

侍  
氏

と  
馬

人  
あ

し  
あ

よ  
あ

人納書經信

夕日さ次あらし

けつそい人

あ

けつそい人

あ

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

お入納を忠良

友原清鶴

こゝへたろりの

はしよりさへは

じくよにあり

ぬみつのみなかみ

丸

後醍醐天皇

舟のこゝろに風の色

秋の空に雲の影

やまのけしきとて

多岐松



石 式子内親王

弁心進及女

きしひき

き

あふりり

秋のころ

と

丸 五山門院

えよ 伊勢の海

あふりり

きり

あふりり

あふりり



右

後藤女

福の

子

その

子

あつた

そ

はら

る

そ

そ

順徳院

ほのく

あま

の

こ

ら

香

見

右

前田

その舟かよはら

い火のふらう

か丁人ばはら

とら

左

に和守文

萩の葉よ風のそと

とぬあふし

うららのほら

月をみ

し

右 前美納志良

夕所日之々

不  
の  
か  
り  
代  
集

ある  
り  
り  
産

口  
の  
小

点

と  
九條前關白公致書

式年にはけり...二部

系  
分  
人  
之  
彼  
者  
所

の  
一  
何  
ら  
成  
み  
日

た  
ま  
は  
人  
を  
わ  
く

留  
に  
美  
の  
志  
良  
波

石 上御所

行方 雲々

あま月 月

こ 月

あ 月

あ 月

あ 月

石 上御所

文 上御所

解 次風

香 案

月 案

石 亦人懐は意名

夕え ころり

のえ ね

夕ふこいほがんと

秋のうし兼よ

く

と 西園寺公家御下

はう秋巻

ふしあふ

んをじ

この世のま

んやの

火

右 人納通具

いふゆふちの橋

それうへ

まはし方秋留

かゝる人たはるん

左 は遠守をた

まこの人との4

いもまじ

おま 出

あへりばあ

あ

名 飯沼清輔下

葉の戸に入口の

新とゆい

いしよく

ひをた

友 指入網を基家

秋やあしからの

そこの松のきんた

とじみねにほる

はら

右 夏秋の丹後

次 秋の丹後

た 秋の丹後

木の葉くま

月や野人

九 藤原の定家

右 長久保の諸絶の

橋 若石の所産

み た 秋の丹後

信 海可



右 後二位兼階

限あまはあまをせしこ

とほり祢のをふれ

介の春來の月花め

こまゆ

右 宗議雅經

あまをせしこゆ

あまをせしこゆ

あまをせしこゆ

春風を吹

右 二條院瀧波

ふみりこ

あふ

みねの

あ

あ

あ

ゆ

ら

ら

あ

あ

え

月み

と

右衛門督為家

たらのこはあま

せあやい

ふのあま

あ

右 階祐

笑の 多ふみ成

あき 都

し けし

あふへい あふ

あふ け

と 大蔵郷有家

香し へく

うみり きてぬ

あさ日新ひる

やゆのさう

花

右 具親朝長

晴くらんう字成

みやこよき

こ

ふくはくはくは

ふりこの月

も 家内

ひんぐり

あはら

さこの

ひんぐり

ふ

ノ

福

福

福

福

福

福

右 藤原秀経

あはれみの心はなかり

みらひの登るるそと

おのゝろはこひ

月夜のみはなほ

た 駿河院大輔

春風のりなや

かき見 きの

みま 吹く

あはれ

く

ゆ

石 小侍後

いふれいふれ

のみふのあふふ

くさ

年いふれえ

二葉たふ

らそ

左

信實朝長

あふそふたふあふ

いふれいふれ

まふれいふれ

かふれいふれ

く

石

家長

ま

ま

ま

ま

まゆと跡

ま

ま

ま

ま

石

床蓮法師

高城やまゆの

ま

ま

ま

ま

ま

右 後鳥羽院

中はとのいふ丹の

とみえくさぬ

て

月と海方

あしきり

外

右 皇太后太后後漢

ゆらり ころり 玉り

まの 乾の

きりやまじ

あき ころ

ほの のん 野

た





右 西の山

と へ の

の

り

ふ

成

り

ふ

か

ふ

り

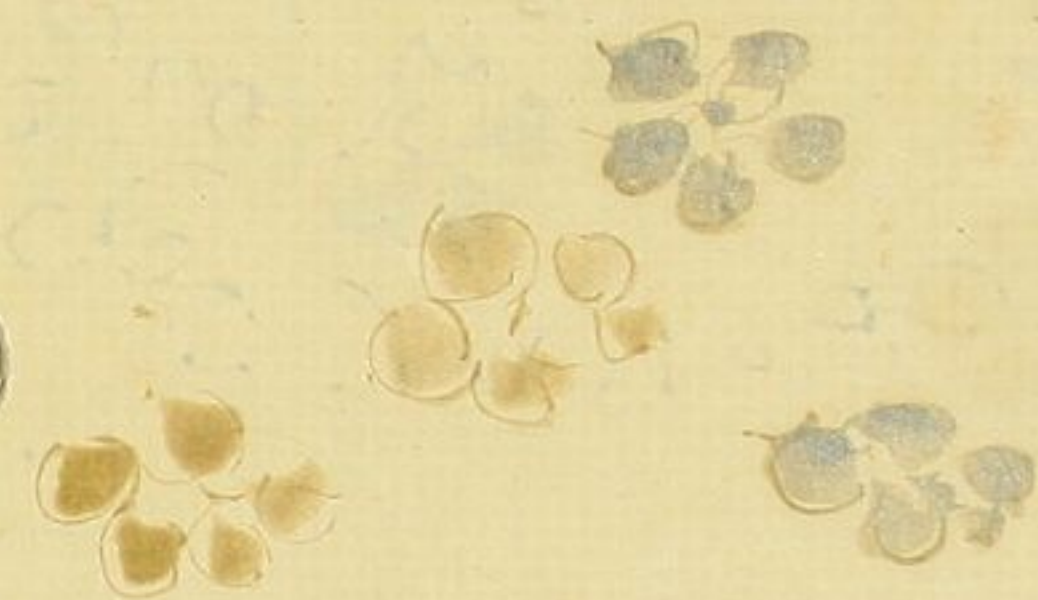
前中納言定家

人所不知かく礼

公仔細乃松若葉

母每所く方是也

久系す心春林



中務卿宗尊親王

宗ふしきこころ

こはちやくれ

井の

ふせりのゆれ

ふしのゆれ

後二位家隆

かき人 雲しんれ

こころのこころ

ゆき守 かき

にひりあ ちんさい

月水

や

る

後二位新藤原

かひみくも

あめ

いのみ

うはつ

あめ

ま

後京極攝政正四位上

常陸公

の

北

屯

後鳥羽院御製

玉川の春の歎を

かあせして

又な

浪

は

系

たぐ  
あわ

赤人僧正慈鎮

あまのうらにまの

うはれし行貴

うせ

あつこしの

あつこしの

あ

後洗心院御製

二月

日

の

春

身行らる

く

の

か

勝

二條院積波

大

子

は

枕

花

吹

の

神

心

る

藤原信實朝臣

津の國の新波所

児在の夕暮るあ

清しのいしりり

風そ吹

春議雅經

うはる

うはる

春

春

春

春

春

春

春

春

春

天台座主隆寛

秋の葉

あき

あき

あき

あき

あき

玉河内院小室相

あき

あき

あき

あき

あき

あき



後九條前御食

あけゆくさき

かき汁の雲は見え

まひしるる

川をわたりて

常盤井道御食

秋のうらみ

来りし月を

ゆきのぼるの

なると

かき

源具親朝臣

ふね人哉

ふねの舟

浦をたを

はとを野

衣

あ

順徳院御製

秋風たのろ

冬はとせ

あ

神子あ

花物

西園寺入道公致長

妹の文よけぬね

つらあき

ふゆふあまたの

かつたの心

夜更の月夜

深のく

け

と

あき 文の子

そ

木のくは

又

し

の

け

か

土御門院御製

夕下草いりては

笑ひたぐりては

か海あゆみては

と流せ

正三位初家

月もあつては

ほそくは

斗る

にのちみ松も

雷のちみ

皇太后天皇天皇後成

身以うまの

海にまれば神

あはれ

いふことにて

悪と所

を

皇太后天皇天皇後成

ひらの まるきや

なす けい

伊うるま

あは

の

いのま

舞

あはれ

飛山院の巻

思ひはくわが

来し人のつ

あふが

身より所の

みづらわ

あふ

並人納まの家

うらやま

あなを

休とん

その

まのり

あふ

あふ

あふ

後思光後朝

ふらみきしと風かき

ふと振り身のおき

かきしのかららね

らとは

式乳門院御連

れら ねよ

しき

あり

き

うらゆん

いの 月のせ

ら ちん

式子門親王

所々々々々々々々

々々々々々々

々々

あつたつたつた

こたつたつた

々々

藤原清輔朝臣

あつたつたつた

あつたつたつた

々々

あつたつたつた

あつたつたつた

々々



前右兵衛待從

物々

はせり

行

と

人若

わきまのしるし

はしるし

あは

人蔵のまゝ

風市来

あいののちやの

あは

と

ふりた

ね

後鳥羽院下野

ゆき

し

し

か

う

人

ゆ

ま

じ

か

鴨長明

じくま屋

あはれ

い

あ

源後頼朝長

世なるいのそじき

いそふ身の

ふそ けふふやい

わふ ちつとこ

人

源家長朝長

ふあう包し君と我

いのふにいわ

そ

たけあふのこ

まののき

中記

土御門内大臣

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

倭歌之仙 受性於天

其才卓介 其鋒森然

三十一字 詞華為鮮

三百餘歲 耒棄風傳

斯道宗匠 長朝之人蹟

但而每緇 鑽之殊堅

鳳毛少彙 麟角猶專

既渭獨步 誰敢比肩

何のく

浦のありき方に

志はうら

船

おと

成通卿

萬古ケイ卿ケイ門ケイ便有チ卿ケイ

藤家フジノケ奕ヒキ葉ハ沐ボク恩オン榮エ

薛セツ嵩スウカ蹴ソウ鞠キウ李リ年ネン笛フエ

天下テンカ俱ク傳デン弟テイ一イチ石シキ

月如溪靜

尋常入雲

愛山高

且暮歸

天原之古

小之好

雲月

海平

雲際日

光分萬井

煙消山色

露子筆

河扇の風

うさびねてん

月まわらふ

此の筆



上陽宮 月

寰曉鐘

後天津

前

橋頭殘

石門河

造如子人 物

冬 列

物 有

新 有

第

洞底松搖

子尺雨

庭前竹撼

一窓秋

住りしりの

い丈松人

きこ

くら

りやう

こく何柳と

長竿

冒雪

白龍

靖

能

瀟

虛心

獨

昔寒

竹

竹

子

竹

子

子

葉

竹

竹

系

竹

竹

竹

子

子

竹

湖邊人

踏三分

緑

塞外

馬嘶一

道燠

夏更後法

巾

斗又可

色

のふら

約冬

ちくま

人

か  
ふ  
ら  
混  
そ  
て  
か  
か  
の  
吹  
風  
の  
か  
の  
か  
の

白  
日  
子  
雲  
帰  
秋  
年  
駕  
天  
一  
年  
一  
年

原水館連

江鴈翼

持托山樓入

浹猿亭

殊山の長

みい包

いし山家

水ゆく  
中て神

神り念

福よそ  
うん  
ねふ  
ふ  
人の  
く  
火

暗  
灑  
心  
吹  
夢  
春  
響  
泉  
入  
松  
落  
決

文路春

行看不

足

詞林秋

望光弥

深

あまのついで

ふたみ

病

じし

ふの

いさ

あ



此  
 山  
 水  
 應  
 唯  
 玉  
 思  
 情  
 消  
 雪

應  
 水  
 藍  
 唯  
 山  
 玉  
 思  
 情  
 消  
 雪

松江月落

溪舟去

蘂

洞雲

閑隱遠

深

道安の山の下

有

かく行く

舟

津

福

津

子

舟

舟

味く  
 味か  
 水の  
 味く  
 味く  
 味く  
 味く  
 味く  
 味く  
 味く  
 味く

瀨洲  
 波  
 得  
 白  
 湖  
 草  
 岸  
 相  
 傳  
 傳

夫 己 乃 之  
其 心 乃 人 之  
其 心 乃 人 之  
其 心 乃 人 之  
其 心 乃 人 之  
其 心 乃 人 之  
其 心 乃 人 之  
其 心 乃 人 之

一點燈  
消  
數  
淚

流下緣邊

皆上奇

龍東日月

不西顧

衣頃代之天之

羽衣希余

來而

括戶崇畫奴嚴

那羅南

